



## 《第2部フォーラム 地域のワーカーズの報告》



### 『安心安全な食を届け続けたい』

企業組合 ワーカーズ・コレクティブ旬 専務理事 根岸真澄

生活クラブ埼玉本部1階で、仕出し弁当、幼稚園給食、社会福祉法人『さくら草(障がい者施設)』の昼食作りを行っている。

幼稚園の弁当には、放射能に対して国より厳しい基準値を設けている一番信頼できる生活クラブの消費材を使用している。『さくら草』は、食べ易さも考慮し、安全な市販の食材を使用することもある。

生産者の顔が見える生活クラブの信頼できる食材を仕入れ、その食材を『旬』を信頼している人が食べることは『安心』につながると考えている。安全なものを安心して食べてもらえる弁当を作り続けることが、私たちの願いであり目標でもある。

### 『誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために』

NPO法人 ワーカーズ・コレクティブ青いそら 共同代表 永瀬美知子

『自分が歳をとった時に使えるサービスを作ろう』『地域に憩いの場としての拠点が欲しい』という思いでこの事業を始めた。

コミュニティレストラン・生活サポート・配食事業を行っている。

三郷文化会館の中にあるコミュニティレストランでは、土日に会館でイベントが行われる際は大変混み合う。地域の方の弁当は1個から配達し、一人暮らしのお年寄りに喜ばれている。平日は地域の方のサークル活動や会議の場として利用されている。青いそらで企画するイベントなどもあり、いつか自分たちも利用したい場であり続けたい。ただし、こうした取り組みは非効率であり理想と現実のギャップも大きく埼玉県の最低賃金を下まわっている。

たすけあい生活サポートは、介護保険などでは賄えない隙間になっている部分のサービスを行っている。公的には対応しない家事・産後ケア・車椅子の介助・移送サービスなど、できることはなんでもやっている。自分たちが高齢になった時や、ハンディをもった時のことを想像し、利用する人の立場でサービスを提供している。日々発生する問題は、毎月の運営会議で議論し、アイデアを出し、解決策を探っている。

地域の皆様に応援していただきながら、ホッとできるお店『青いそら』になるよう頑張っていきたい。



### コメント・感想 天笠啓祐さん

私たちに何ができるのか。

アメリカに遺伝子組み換え表示を強く求めている消費者団体がある。私たちが、そのような団体と連携するとアメリカ政府は日本政府に強いことが言えなくなってくるので、同じ志を持っている世界中の人たちとつながり、日々活動していくことが大事である。ワーカーズコレクティブが取り組んでいることは、その場で終わっているわけではない。良いものを食べ、悪いものを食べなければ世界を変えられる。小さなことを根気よく積み重ねてやっていくことが世界につながることだと感じた。

